
伝説の超猫 V S コックな三男

ランチュウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

伝説の超猫VSコックな三男

【Nコード】

N9014H

【作者名】

ランチュウ

【あらすじ】

ある日、ヴェインは変な粘土を食べて性格が変わってしまった。ちょうどその頃、トッドも伝説の超サイヤ人によって・・・！？前代未聞の中の人関連のネタバレが繰り広げられる！？

(前書き)

一応言っておくと、キャラが完全崩壊しているので注意。セリフにいたっては、コックカワサキのほうはあまり似ていない(料理のことしか言っていない?!)ので、ご注意ください。しかし、ブローリーは似ているはず。FF12はあまり詳しくないので明らかにおかしい場所もありますが、ギャグとして解釈してください

ヘルクライム78柱を離反したダークディステイニーは、あるイタズラを考えていた！

ダークディステイニー

「そつだ！まずい料理を作るやつを、真面目な奴に食わせたらどうなるんだらう・・・？」

ダークディステイニーはそういつと、コックカワサキを誘拐した！

カワサキ

「ひょえ〜、飯はまずいよ、給料安いよ、休みないよー！？」

カワサキは状況が読めていない！

ダークディステイニーが走っていると、目の前にアイツの三男が！

ヴェイン

「（心の声：む？前方から妙な闇の生命体がやって来るぞ！？）」

その闇の生命体・ダークディステイニーはコックカワサキを手に握りしめながら、ヴェインに襲い掛かる！！

ダークディステイニー

「これを喰えー！ー！！」

ヴェイン

「な、なんだそのオレンジ色の粘土みたいなやつは！？」

ダークデイスティニー
「喰えば解る」

ダークデイスティニーはコックカワサキをヴェインの口に押し込んだ！

ヴェイン

「がぼっ……ごっくっ……」

ひどいなり、君……。よくもあんなに握りしめてくれたな！

ダークデイスティニー

「な、なにに！？」

なんと！！コックカワサキはヴェインの体内に潜り込んだことをいいことに、ヴェインを洗脳してしまったのだ！

ダークデイスティニー

「お前、まさかカワサキ？」

ヴェイン

「今はヴェインだよ。ああ、フサフサの髪の毛……。俺、いままでハゲだったから嬉しいよ」

ダークデイスティニー

「それは……。よかったな……（苦笑い）」

ダークデイスティニーは発言がキモくなったヴェインにドン引きしているころ、ブロリーはトイレを借りにある家に侵入していた。

ブロリー

「お前達がトイレを貸す意思を見せなければ、俺はこの家を破壊しつくすだけだあ!!」

そういつても何も返事がない。しかし、耳をすましていると、変な声が聞こえてくる……。

しーっぱっぱ、しーぱしーぱ……

ブロリー

「ん？」

ブロリーは声ができるほうへ歩んだ。

ブロリー

「なんだ? ……へあっ!？」

ブロリーは思わぬ光景を目の当たりにした!

だって!! トラ少年が用を足してるのを、トラ少年の両親が応援していたのだから……!!!!

ブロリー

「な、なんて一家だ!!」

ブロリーは思わず逃げ出した! あのブロリーがなぜ逃げ出したかって? このあと出現するブリーフの存在、パンパン・パンツマンが現れることを察知したからだっ!

ブロリーはドアを突き破って脱出した! すると、目の前に猫がいた!

トッド

「な、なんだお前は!？」

ブロリー

「ふはははは!!!」

ブロリーはトッドの口の中に入り込んだ!

トッド

「ぱくつ・・・ごくつ・・・。。」

ふふふ、素晴らしい力だあ!!」

トッドがブロリーに洗脳されていたころ、ダークデイスティニーはクリッターと遊んでいた。

ダークデイスティニー

「フサフサだなあ、お前・・・」

ダークデイスティニーはクリッターを蹴飛ばした!クリッターは壁にぶつかって、目を回した!

ダークデイスティニー

「ちよつと、実家のタイへ帰還する・・・」

ダークデイスティニーはそういつて、立ち去った!

クリッター

「あ、いや・・・ちよつとー!!」

クリッターがバカ騒ぎしているころ、ヴェイン弟のために料理を作

っていた！

ヴェイン

「ほーら、レバナニラ炒めだよ！」

ラーサー

「そんな下品な料理だされても、僕……。(心の声：兄さん、いきなり優しくなった。なんか、変な食べ物でも食べたのかな?)」

オレンジ色の粘土喰ったんだよ。

すると、二足歩行する白目の猫がやって来た！

トッド

「変な髪型のおっさん、弟が可愛いな!!」

すると、ヴェインは爆弾発言をぶちかました！

ヴェイン

「なにいつてるんだ、変な髪型は……。」

この小僧のほうだろ！」

なんと、ヴェインは弟のラーサーの髪型のほうがおかしいというのだ！

それを言われたラーサーは、涙ぐみながら

ラーサー

「に、兄さんの髪型のほうが変だし……!!」

と、言っただけかへ行ってしまった！

ヴェイン

「ふっ、兄に勝る髪型などない!!
らりるれろらりるれろらりるれろ」

トッド

「さすがナルシストと褒めてやりたいところだあ!!
と、思っているつもりも思っていたのか!?!」

トッドはヴェインに緑の玉を投げつけた! ヴェインは重傷を負った!

ヴェイン

「くそ、もっと料理がうまくなれば……。そっだ、あれを呼ば
う!

わ、ワープすたあ」

すると、ヴェインの期待に答えて、いくつかの星がやって来た!

ヴェイン

「俺に力をクレイモア!」

ヴェインは星から力を吸収した!すると、ヴェインはゴリマッチョ
になった!

トッド

「なあにい!?!」

どうやら、その星には死んでいった仲間の力が入っていたようだ!

トッド

「雑魚のパワーを吸収したとて、俺を超えることはできぬう!!!」

ヴェイン

「ふ、こつちにはスターロッドがあるんだぞ！」

見ると、ヴェインの手にはスターロッドが握られていた！

ヴェイン

「ヴァンちゃあああん、お命頂戴!!!とえつー!!!」

とかなんとかいいながら、スターロッドを振り回す、三男・ヴェイン(27)の姿を見て、あの人が・・・

ターレス

「気持ちわりい、やだオメエ」

ヴェイン

「失礼だなあ、食らえ!!!アッー!ビーム!!!」

ヴェインは上空へ飛んだ!そして大量のビームをターレスに当てた!

ターレス

「ぶぎゃああああ!!!」

トッド

「カカロットの偽物・・・!?!」

ヴェイン

「今度はお前の番だ!!!野良猫野郎!!!」

トッド

「空中にいること、それは死を意味する！！！」

トッドはヴェインに向かって緑の玉を投げつけた！

デデー

ヴェイン

「あああああー！！！」

ヴェインは爆発した。が、死なずに地面に倒れた！

トッド

「死にぞこないめえー！！！」

トッドがヴェインにトドメを刺そうとしたとき、ヴェインに“まずくても食べ物を粗末にするものを許さない者”（不滅なる者）がとりついた！

ヴェイン

「俺の料理、まずくても残すなあー！！！」

ヴェインの体に、今まで捨てられていったマズイ食べ物がかくっついていく！

ラーサー

「だれか、兄さんを止めてえー！！ん！！！」

ヴェイン

「止まらないぞ、ラーサーよ！！！！ってか俺はお前の兄なんかじゃね

え、一人の料理人だ!!!」

ヴェインはみるもおぞましい、残飯の神様になり果ててしまった！すると、兄二人が地獄の底で嘲笑う！ついでに親父も!!

長男

「そこまで堕ちたか、変態ヴェイン!!」

次男

「やーい、ゴリマッチョ!! さつさと死んで、こっちに来い!!」

親父

「ヴェインよ・・・」

トッド

「(ヴェインの)親父い、なんだあ?」

親父

「今回は諦める」

トッド

「へあっ!?!」

ヴェイン

「諦められねえ!! あんな童顔に全てを託せるか!!」

ラーサー

「まだ、12歳・・・なんだけどね」

ヴェイン

「うつせえ、クソガキ！！だから、俺はお前の思っているような兄じゃないんだよ！！」

ヴェインは光でステージを吹き飛ばす！かなりの広範囲が消し飛んだ！その際、かなりの料の残飯が落ちた！残飯はシャモ星人のエサになった！

トツド

「なんて奴だ！」

ヴェイン

「さあ、来い！！ここがお前の死に場所だあ！！！！」

トツド

「ん？勝手にセリフをパクるなあ！！んん、んおおお！！」

トツドはパラガスを持ち上げた！！

パラガス

「やめろ、ブロリー！！」

トツド

「おおお！！おあああ！！！！」

パラガスは投げられた！

パラガスはヴェインに激突した！すると、ヴェインの体は崩壊しはじめた！

ヴェイン

「あああああー！！！！」

ヴェインは爆発した！その際、オレンジ色の粘土も落ちたが、不滅なる者の顔と一緒に消滅した！

トッド

「終わったな・・・」

ラーサー

「はい・・・」

こうして、世界は平和になった。

パラガス

「勘違いするな。ブロリーが存在する限り、世界に平穏などない」

(後書き)

次はシロツッコっぽいブロリーVSヴェインっぽいコックワサキも
やってみたい気もするけど・・・、ブロリーVSナタネってのも考
案中・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9014h/>

伝説の超猫VSコックな三男

2010年10月21日21時14分発行